

牛久市版
レッドデータ
ブック追補版

牛久における絶滅のおそれのある野生生物 ＜植物編普及版＞の発刊について



詳しくはホームページ
をご覧ください。



牛久市では、「牛久市の環境を守り育てる条例」や「牛久市環境基本計画」において、自然環境や生物多様性の保全を図るための施策のひとつとして平成18年に初版を刊行し、生態系や景観の保全並びに市民の皆さまへ情報提供・啓発に努めてきました。しかし刊行から約10年が経過し、牛久市内の生態系にもさまざまな変化がみられることから、平成29年度環境審議会において見直しを提案され、冊子発刊後に得られた情報に加え、牛久市域で希少種と考えられる植物および、牛久市版レッド

発刊日／令和2年3月
金額／1,350円(税込)
内容／A5版 オールカラー(103ページ)初版の176種に加え、追加調査した30種を掲載。
市内図書館等で閲覧できるほか、都市計画課で販売中。

データブックの評価と現状が異なる植物を対象に、NPO法人うしく里山の会と協働事業で調査を実施。平成29年11月から令和元年11月までの調査結果を追補版として刊行しました。市民の皆さまの環境学習や自然保護活動等に活用いただければと思います。

里山の樹木

第57回 オニグルミ



①結実期の樹冠：結末町小野川岸(平成24年8月6日撮影)
②雄花序：福田町(平成20年4月30日撮影)
③果実：福田町(平成21年7月10日撮影)

クルミ科クルミ属の落葉広葉樹の高木。国内では北海道〜九州にかけて分布し、市内でも川岸などに自生するほか、屋敷などに植栽もあります。樹皮は暗灰色で、縦に深く平行に割れ目が入ります。葉は互生し、奇数羽状複葉、長さ40〜60cm、11〜19枚の小葉からなります。開花期は5〜6月。雄花序は長さ10〜22cmで前年枝の葉腋から尾状に垂れ下がり(画像②)、雌花は新枝の先に直立。果実はほぼ卵円形で長さ3〜4cm(画像③)、内果皮(核)は極めて堅く溝があり、9〜10月に熟します。種子は脂肪分に富み、味覚・栄養ともに抜群です。名前は実が堅くて割りにくく、核面に凹凸があり、醜いことに由来します。※牛久の里山樹木ハンドブック14ページ掲載。本の問い合わせは牛久自然観察の森(☎874・6600)まで。【資料提供】NPO法人うしく里山の会(文章：平塚芳雄 写真：①戸塚昌宏、②渡辺泰、③宮澤靖)

しぜん大好き

ノシメトンボ

(熨斗目蜻蛉)

トンボ目トンボ科



ナツアカネやアキアカネとともに、牛久の周辺で普通に見られる赤とんぼの仲間です。成熟したオスの腹部は赤ではなく暗褐色になります。7月初めごろに水田等で羽化し、夏の間は水辺近くの雑木林や公園などで過ごし、稲刈り後、水田等に戻ってきて産卵します。羽の端の褐色部分が特徴で、飛んでいる時に荷車の車輪のように見えることから、昔から「車とんぼ」の呼び名があります。しかしながら、最近の子どもたちとの観察会ではなるほど、タイヤが4つあるように見えるからなんだね」と、時代とともに「車とんぼ」も「クルマとんぼ」に変化したようです。